

園児とサツマイモ掘り

コミわかグリーン倶楽部(KGC)は10年前から、徳間のコミわか農園の一角(約200㎡)をサツマイモ畑として毎月かがやきこども園の園児との交流の場としています。

今年の6月上旬に園児たちと一緒に植え付けたイモが収穫時期を迎えましたので、9月17日こども園の園児約70名を迎えて、サツマイモの収穫体験会を行いました。

園児たちは上野の昭和の森公園にある園から徳間農園までの道のを歩いて到着。可愛いあいさつを交わすと直ぐに畑に散って、グリーン倶楽部会員や協賛で参加しても



らったJA吉田支所の職員達がスコップでイモの根元を緩めると土の中に手を突っ込んで我先にイモを掘り出して歓声を上げていました。収穫したサツマイモは10月に園で行う焼き芋大会用に寄付するとともに子供たちにも

お分けしました。

一人ひとりイモを持ちながら帰路につく園児の笑顔に癒され、栽培の苦勞も吹き飛んだ時間でした。この事業はこども園の要請もあることから、引き続き実施することとしています。(コミわかグリーン倶楽部)

『ごみ・資源物の分別とリサイクル』研修会の開催



講義風景

9月14日(月)、コミュニティセンター大会議室において、自然環境部会及び各区区長、副区長が参加して『ごみ・資源物の分別とリサイクル』についての研修会が開催され

ました。この研修会は自然環境部会の「環境問題啓発事業」の一つとして実施されており、本年度は長野市環境部生活環境課より講師をお招きして、長野市のごみ分別・ゴミ減量についてお話をお聞きしました。

長野県の一人一日あたりのごみの少なさは5年連続全国一位と非常に誇らしいことですが、残念ながら長野市は全国平均程度に留まっており、まだまだ改善が必要です。「生ごみの水分をできるだけ除く」、「食品ロスを減らす」など、各ご家庭で“無理することなく、当たり前のできる”ちょっとした工夫をすることでゴミ削減につながります。

地域の皆様、各ご家庭での一工夫、ご協力をお願いいたします。(自然環境部会)



ダンボール堆肥の器材

ふるさと若槻「アーカイブ」事業について

第二次まちづくり計画で区長部の事業になっている『ふるさと若槻「アーカイブ」』とは、何？との話が聞かれます。新型コロナの影響で様々な事業が中止となり、コミわか広場の構成に苦勞している折り、前月の編集会議で何かないかと言われました。それなら、私が発案して第二次まちづくり計画に盛り込まれたふるさと若槻「アーカイブ」を稲積一里塚(稲田)を例に説明した文をと、提案し了承をいただきました。そんな訳で寄稿させて頂きました。(事務局長 福澤)

若槻が、坂下地区を中心に大きく変わり始めたのは、東京オリンピックが開催された昭和39年(1964年)でした。この頃の若槻は、旧北国街道の両側に家々が並び、その外側に水田やりんごなどの果樹園が広がっており、どの区も景観的にはそれほど大きな差はありませんでした。その年、檀田、稲田、徳間、若槻東条にまたがる地で長野県一の若槻団地の建設が始まりました。測量が始まり、水田などがブルドーザーで掘られ、農道脇に置かれた鉄管が埋設され、その上に道路ができ、整地されてあつという間に住宅地に生まれ変わっていききました。この頃からです。稲田や徳間などに小規模な団地も分譲され、稲田を皮切りに区画整理も始まり、若槻大通りや北部幹線も開通して、昔の面影を追うことさえできない街に変わり、皆さんが今日にする光景になりました。

若槻が変貌する前の風景や変わりゆく姿などを写した写真や映像がご家庭に眠っているのではと思います。そして親や祖父母が亡くなったり、新築を機に廃棄されているのではと思います。そんな貴重な写真などをお借りしてデータ化して保存(将来は資料として公開)することを今年から始めたいと考えています。これがふるさと若槻「アーカイブ」事業の目的と骨子で、区長部で詳細をつめて、皆様に改めてお願いいたします。

私が昔の映像を残さなければと思ったのは、昭



(写真1)南塚の松と農道



(写真2)畑の中にぽつんとある北塚と松



(絵1)昔の絵



(写真3)農道脇を流れていた小川